

令和3年1月26日

保護者様

アソカ幼稚園長 小林 淳一

令和2年度 アソカ幼稚園 「園評価」結果及び保護者感想報告

寒冷の候、日頃より本園教育にご支援・ご協力をいただきまして、感謝申し上げます。さて、令和2年度園評価・保護者アンケート感想のご提出ありがとうございます。つきましては、結果をご報告させていただきます。

1 対象者内容

対象者	人数	回答数	回答率	実施期間
教職員	18名	18名	100%	令和2年12月2日～ 12月10日
全保護者	園児数 105名 (世帯数97)	53名	55%	令和3年1月 8日～ 1月24日

1 教職員 自己評価

A 十分 B おおむね C ちょっと足りない D できていない E 評価できない

【I 教育目標・教育方針・教育課程・指導計画】

		A%	B%	C%	D%	E%
1	園の教育目標(いのちを大切にすることを子供たちのなかに生かそうとしている。	61	39	0	0	0
2	月・日教育計画案は、幼稚園要領、園の目標や方針をもとに作成している。	27	18	0	0	55

【Ⅱ 教育の内容・方法・教育環境】

1	勉強や遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	27	50	11	0	12
2	子どもの発達を考慮し、興味・関心に応じた保育を行っている。	23	56	11	0	10
3	クラスの友達や他学年とのふれあいなどを通して、豊かな人間関係を育てている。	28	50	0	0	22
4	一日の生活がより豊かになるよう(手洗い、排泄、あいさつ、片付け、クツそろえ)の基本的な生活習慣を指導している。	33	65	1	0	1

【Ⅲ 教師の役割・資質向上】

1	一人ひとりを大切にされた教育を心がけている。	56	44	0	0	0
2	保護者に子供の様子を話したり、クラス通信などで知らせたりして連携をとっている。	23	45	9	0	23
3	研修会などに進んで参加したり、自ら学んだりして教師力を高める努力をしている。	1	62	28	0	9

【Ⅳ 運営管理】

1	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	89	11	0	0	0
2	個人情報等の管理は間違いのないように行っている。	73	23	0	0	4
3	他の職員と互いに認め合い、協力して仕事に取り組んでいる。	78	22	0	0	0

2 保護者評価

A 十分 B おおむね C ちょっと足りない D できていない E 評価できない

		A%	B%	C%	D%	E%
1	「いのち 共に生き共に育ちあう」という教育方針のもと、日々の教育が行われていると感じる。	75	23	0	0	2
2	一人一人を大切にした指導が行われている。	60	36	0	0	4
3	子どもの発達を考慮し、興味・関心に応じた保育が行われている。	62	34	0	0	4
4	クラスの友達や他学年とのふれあいなどを通して、豊かな人間関係を育てている。	74	26	0	0	0
5	園だよりやクラス通信などを通して、幼稚園の情報を、適切に伝えている。	74	19	7	0	0
6	園内や教室の環境・安全整備や美化に努めている。	74	21	4	0	1
7	居心地のよい預かり保育(クジラ組)が実施されている。	58	17	4	0	21
8	コロナについて対策や対応が適切であった。	58	36	2	0	4
9	幼稚園(教職員)の保護者への対応は適切である。	64	30	4	0	2

3 保護者感想★一部抜粋

○年長組

・世の中がコロナで不安な情勢のなか迎えた年長の始まりだった。うちはくじら組を利用していたのだが、先生方も不安な中、預かってくださり本当に感謝の毎日だった。娘も生活リズムを崩すことなく、毎日元気に通うことができ、笑顔でいてくれることが嬉しかった。行事や集いは例年よりも少なくさみしい気持ちもあるが、それよりも園を開き続けて、いつでも迎えてくれたことの温かさ、先生の気遣いある声掛けに本当に勇気づけられた。

・コロナの影響が様々な場で、見られるなか始まった一年。例年であれば行われていた行事がなくなり残念な気持ちもあるが、年長さんである「今」これらのことを経験できたことは、とても意味のあることだったと思う。命のことを考えたり、会いたい人に会えなかったり、やりたいことができなったり。これから生きていくうえで優先順位を意識して生きていけるだろう。緊急事態宣言下でも「くじら」を開いて頂き園と関係者の皆様には、感謝しかない。予定していた産後のヘルプが軒並みキャンセルされたなか、幼稚園の存在が心の支えだった。産後うつになることもなく、元氣になれたのも一重に園と先生方のお陰だ。コロナに罹っても「お互い様」と思うようにしている。どうか陽性の人がでても責めることがなく、心穏やかに皆様が日々を過ごされますように。

・今年度は親も幼稚園も手探りで過ごしてきた一年だった。一学期の行事が行えなかったのは本当に残念だったが、2学期には運動会・遠足・動物園探検隊・マリンルージュ乗船・劇遊び発表会など、子どもたちの心に残る行事をたくさんやって頂けて、とても嬉しかった。幼稚園の話を楽しそうにする娘の姿を見て、やはりお友達や先生方との交流は、子どもたちの心の栄養になるんだなと痛感した。

・コロナ禍で日々当たり前だったことが変わってしまい楽しみにしていた行事も減ったことは本当に残念だった。それでも縮小分散対策のなかで行われた運動会・劇遊び発表会は子どもたちの成長した姿を見られる素敵な時間となった。厳しいなかでも子どもたちの元氣な姿が見られ、手洗いうがいなど毎日の習慣が身についている。自粛中友達に会えない日々は子どもにとって、とても退屈な時間だったので、制約があるなかでも大勢の友達と会って遊べることは、心の成長にも繋がることと思う。心配事がつきない状況ではあるが、できることを一つずつ親としても見守っていきたいと思う。

・息子は幼稚園最後の一年。うめ組の終わる頃まで「お泊まり保育にはいけない」と言っていたか、きく組になると一変して「すごく楽しみなんだ。」と話していた。先生への信頼が大きくなり、またお友達ともっと一緒にいたい気持ちの

表れだと感じ、お泊まり保育を通じて成長が見られるのではないかと期待していたので、中止は残念だった。しかし、運動会・劇遊び発表会を通じて大きく成長した姿をみることができ感動した。

・コロナでいろいろと中止になり、想像していた年長さんとは違ったが、試行錯誤して頂いていることもたくさん伝わる年だった。まずマスクをあんなにたくさん手作りして頂き、手に入らない時に、気持ちもとても嬉しかったし、心も温まり、上手すぎて買ったマスクよりも丈夫で、本当に感謝だった。年長さんは行事が多いので中止は残念だったが、安全を第一に考えてくれたと思うのと、こんな時代だからと思うことが多かった。

・毎日楽しく通園しているらしく、帰宅すると楽しそうに園での出来事やお友達の話をしてくれる。預かり保育もしっかりしていて、仕事をしている身としては非常に助かっている。「ほがらか森」ではハチさんグループの先頭で元気いっぱい楽しく演じていたのが一番印象に残っている。

・厳しい状況にあっても運動会や劇遊び発表会を工夫したうえで開催してくれたことは本当に有り難いことだった。娘にとっては最後の幼稚園、劇遊び発表会では元気いっぱい猫を演じ、ダンスも歌も一生懸命に練習した成果を見せてくれた。また、いつも年少組の弟の面倒をよく見てくれたと聞いている。自宅ではよくけんかしている姉弟だが、園では違った面を見せているようで娘の成長を感じた。

・担任のさや先生はじめ、その他の先生方皆様いつも園児の目線で物事を見てくれて理解し共感してくれる姿勢に、いつも助けられていた一年だった。いつも優しく、時には厳しく指導してくれるお陰で不安なことや心配事も先生が言うなら、見てくれているなら大丈夫と思わせてくれた。息子は年長になって、幼稚園での出来事をますますたくさん話してくれるようになり、成長を感じた。いつも親身になってくれる先生方のお陰で親子共々成長できたかなと思う。

・コロナ対策で大変ななか、子どもの様子を細かく気にしてくれて感謝する。保育園の経験もあったが、幼稚園では色々な行事もあり子どもの成長を促すような働きかけも言って頂き、本当にアソカ幼稚園に通わせてくれて、嬉しく思っている。なかでも、劇遊び発表会の最後に「終わりの言葉」を述べさせて頂いた際、本当に子どもの成長を感じられた。これから小学生になるが、アソカ幼稚園での経験を糧にまた成長できるように頑張っしてほしいと思っている。

・世界中がコロナ禍のなか始まった、今年度だが、幼稚園生活も最後であり、大事な一年をこの状況でどう過ごしていくか不安と心配ではあったが、先生方のお陰で、できる範囲で行事も開催して頂き感謝する。子どもたち一人一人に寄り添って、よく耳を傾けて下さり、フレキシブルに対応してくれて本当に感謝している。すぐ先が見えない世の中になっているが、みんなで元気に卒園を迎えられ

ることを願っている。

・今年度は、通常保育でもコロナ感染対策が必要ななか、運動会・劇遊び発表会・遠足等のイベントも制限があるなかで工夫し、実施して下さり感謝する。去年は恥ずかしがってできなかったダンスやかけっこも今年は楽しそうに堂々とやり遂げ、この一年間での成長を感じ嬉しく思う。家でも幼稚園での生活を楽しく話してくれる。優しい先生方やお友達に感謝している。

・娘にとって幼稚園最後の一年が始まる！と楽しみにしていた矢先の休園でもかわいそうなき組の始まりだった。休園中、幼稚園から届いたお手紙とマスクに先生方が子どもたちを思ってくれているんだなど、とても嬉しかった。スーパーなどで「マスクかわいいね」と言われることが多く、娘はいつも「大場先生が作ってくれたの」と自慢していた。アソカまつりやお泊まり保育が中止になってすごく残念な気持ちだったが、娘は残念に思いながらも、幼稚園に行ってお友達と過ごせただけでも、いつも嬉しそうで楽しんでいて、そんな姿を見て日々の生活の大切さに気づかされる一年だった。

・年長になってから、教室に一人で行けるようになり、それまで毎朝教室まで付き添っていた時のことを思うと、ずいぶん成長したと感じる。また、6歳になって歯が抜けたり、恥ずかしい気持ちが芽生えたりして身体も心も成長しているなど思った。劇遊び発表会は直前まで体調を崩してあまり練習できなかったが、今は月のうさぎの練習を頑張っているので、少しずつ自信をつけて本番を迎えられたら良いと思う。

・例年とは違う状況のなか、安全に過ごせるように様々な工夫をして下さり、感謝する。過去経験したことの無い事態だが、戸惑う大人より、子どもたちの方が上手に対処していて、感心することが多い一年だった。私もコロナを「正しく恐れる」ようにしていきたい。園生活では最終学年だったが「できなかった行事」にあまり執着することなく「毎日の園生活」をのびのびと楽しんでいたように思う。

・年長になり、本人がやりたいと言った習い事をさせてから、最初はできなかったことが少しずつできるようになり、自信が持てたのかその後の運動会のカブトムシも頑張りそれも成長に繋がり、すごく心と体が成長したように思う。年少・年中と言いたいことがうまく伝わらず、泣いたり、怒ってたたいたり、黙ったりしてしまっていたのが、年長になり、自分の思いを言葉にして言えるようになり、泣いていた最初を忘れるくらい成長したんだと思う。年長になって、くじら組で「年少さんの面倒を見ている」と聞き、兄弟のいない息子が出来るのだろうか…と半信半疑だったが、一緒に遊んでいる姿を見て、相手のことまで考えてあげられるようになったんだな、優しい心が育って良かったなと思った。

・転園してすぐの頃は「前の幼稚園のお友達に会いたい。」「みんなの名前がわ

からないからいきたくない。」と言っていたが、通常保育が始まり徐々に行事が再会されてくると「〇〇ちゃんと同じ役になった」「明日はバスで動物園だから早くいかなきゃ」と幼稚園生活を楽しんでくれるようになった。

〇年中組

・今年にはコロナの緊急事態宣言により、どの価値観が正しいのか、いつになったらまたどのあたりまで外に出ていいのか等、精神的に参っていたが園が始まり、子どもが楽しそうにお友達と接しているところを見て、本当にほっとした。ただ、年長組一泊保育やアソカまつりなどのイベントが中止になり、仕方がないとはいえ残念だったこともあった。特に一泊保育は、一泊しなくても贅沢に幼稚園を一学年で占領して、アソカまつりであるような出し物を少しだけでも出して、夕方頃まで遊ぶなど、単に中止だから我慢しようとするのではなく、何か代替となるものがあってもよかったなと思った。

・本年度はコロナの流行で「今まで通りの園生活」を送ることが難しい中で、先生方には、できる限り行事を実行してもらい、安全に園生活を送ることができるように対応してくれ感謝している。運動会・劇遊び発表会を通じ、子どもたちの成長を見ることができとても嬉しく思った。昨年たんぽぽでは、親から離れられなかったり恥ずかしくて立っているだけで終わってしまったりの子が、親から離れ堂々と踊ったり、演じることができ、正直びっくりした。たった一年で、きっと例年より練習時間が短かったであろうにも関わらず、素晴らしい姿を見ることができ感動した。

・まだまだ先が見えないなか、幼稚園・先生方の負担も多いと思いますが、楽しく子どもは、できているので感謝している。行事の縮小や中止が残念だったが、最近炊いたご飯を食べたイベントはとても楽しかったようだ。年少さんが入り、自分が年少さんのお手伝いをするようで、周りのことも気にかけることができるようになったのかと感じる。

・特殊な中、園を評価するのは難しい。ただ、コロナの中園児に感染者がいないのは園の努力と思う。子どもの成長に関しては、先生方と長くお話をすることがないので、もう少し日常の様子など聞けたら幸いだ。

・コロナに関して、皆様同様とっても恐れていると思う。くじら組では、おやつ時間に席の配置をかえたりと、工夫をしてもらい、安心材料が増えたと思う。また、くじら組に関しては、働いていない方の利用を自粛してもらえると少しでも密を防げると思う。

・年少の時とは違い自分の考えを友達に伝えるようになったのかトラブル(考えの違い程度)もあり、刺激のある日々と感じた。うまく毎日登園できないなかで、劇遊びの「おばあさん役」もやり切りとても感動した。

・一年を通して様々な制限がかかる日常となったが、予防対策を立てて頂いたお陰で、無事に運動会・劇遊び発表会が開催されたことは、子どもの成長を実感できる機会の一つとして、強く印象に残っている。両行事の演目とも周りの友達から刺激を受け、自宅でも毎日のように練習をしている姿はとても頼もしく映った。目標を持って一生懸命に取り組む様子は親にとっても貴重な思い出となった。本番当日は終始緊張していたが、練習の成果と「やり遂げたい」という気持ちを感じられ、この一年間での成長を感じた。

・本年度スタートすることさえ不安しかないなか、預かって頂ける先生方には本当に感謝でいっぱいだ。運動会も劇も毎日頑張って練習していたことが伝わり、細かい動作一つ、表情から感じ取れると思ひ、涙あり笑いありだった。お米を育て食べる日までの二日間（お米を持って行く塩を持って行く）何度も何度も聞く私に対して、子は適当に「そうそう」とだけの返事。我が子だけでは伝わることはなかったなど日々の会話を反省すると共に、また、こういう流れがあると親子で成長するきっかけになりそうだ。

・本年度はコロナ禍という特別な状況でスタートしたが、くじら組も含め、園生活が送れたことに、本当に感謝している。運動会や劇遊び発表会、通常の園生活においても感染症対策をして下さっていることで、友達と思い切り遊ぶことができていたようだ。子どもの成長で一番印象深いことは、お米作りをさせて頂いたことだ。自分たちで苗を植え、収穫し脱穀し食べたことで、子どもなりに感じたことがあったようだ。最近は食事の際「もったいないから頑張って食べちゃう」と言うことが増えた。（もったいないからお母さんが食べてとも言うが）現代のような飽食の時代において「もったいない」という気持ちが生まれたことは、体験から得られた大きな学びであったと思っている。

・コロナで思うように学べず遊べず、行事もとても少なくなり、子どもだけでなく、親の人生でも経験したことのない一年となった。子どもも今ではコロナ・マスクが口癖になっている。そんななかで小さな運動会は子どもも親もとても良い気分転換になり良い思い出になった。

・コロナ禍で子どもたちも様々な制約を受けた一年だった。対策をとりながら運動会等の行事を行ってもらい、親子共々にいい思い出になった。コロナでお休みになったことで幼稚園でお友達と一緒に遊べる大切さを深く感じた。

・コロナ禍のなかアソカまつりは残念ながら中止となってしまったが、運動会や劇遊び発表会などの行事では、感染症対策に細心の払いつつ、行事で一生懸命に踊り歌う娘の姿には感動し、何度も救われた思いだった。

・新型コロナウイルスの影響もあり、例年とは違う年だったと思う。それでも運動会や劇遊び発表会を開いてくれたことに感謝する。娘は家で色々なお友達の名前を言っていてしっかりとコミュニケーションをとれていると思っている。

・新型コロナ感染症防止を図りながらも、運動会や劇遊び発表会など保護者も園児も思い出に残る行事を開催してくれたことには、本当に感謝している。また、日常の活動についても可能な限り以前と同じように継続して頂き、家庭や日常的な外出においては制約の多い子どもたちも楽しく通うことができた。色々と工夫を求められ苦勞の多い一年だったが、皆さんのお陰で充実した幼稚園生活を送ることができた。

・コロナ禍での運動会が行われたこと、大変印象に残った。先生方の苦勞があったと思うが子どもたちの元気な姿を見られて良かった。娘は演技がすごく苦手で練習時から先生にご苦勞があったと思うが「お客さん」という役をいただけて先生のご配慮、有り難く感じた。

・今年度は、コロナで始まり、不安や不自由が拭えない一年だったが、その中でも対策を講じていただき、子どもたちにできる限りの経験をさせて頂いたことに感謝する。印象に残っていることは、運動会だ。久しぶりの行事で子どもたちが先生方と思い切り身体を動かしている姿を見られて胸がいっぱいになった。年少時には見られなかった堂々とした姿はとても頼もしく見えた。成長と共に集団生活のなかで起こるトラブルや悩みも変化が見られ、親としても接し方に悩む時があったが、担任のみちる先生を始め、先生方に親子共々支えて頂き、楽しい幼稚園生活を送ることができた。これからも集団生活のなかで楽しいこと、ワクワクすること、悔しいこと、落ち込むこと、色々な経験をして成長して欲しいと思う。

・くじら組でうんていをすることがあり、まめを作って必死に取り組む姿を見せてもらった時は、とっても幸せな気持ちになった。お友達のことが大好きで仲良く遊びたいのに、なかなかうまく伝えられず、けんかをするが多いため、家に帰ってから「何をしたの？」と聞くと「けんかした」と言うことが多いので、毎回自分はどうしたかったのか、自分はどうしてほしいと思うかを聞くようにしている。それでも毎日同じ繰り返しになっているので少し困っていたところに、先生に対しての反抗があり、すみません。少しずつだが、家でも説明出来るように思いを口で表現し、人に当たらずできるよう伝えたい。お友達や先生方と一緒にいる時間がとても楽しく遊びの幅が広がっていること様々な遊びを考え行動に移すことが出来るようになってきていること等、幼稚園でお世話になってから工作等にも興味を持ち、素敵なお土産が毎日沢山あって、園での過ごし方も伝わってくる。

・休園期間も長かったので、子どもを見ながらお互いストレスを感じながらの在宅勤務では、幼稚園のありがたさを痛感した。毎日先生、お友達とふれ合うことでしか出来ない体験がたくさんあり、当たり前と思っていた園生活が、いかに充実している場所であるかを知らされた。大場さんが1200枚のマスクを手作

りして、各家庭に配布して頂き、子どもだけでなく家族にまでの思いやりを感じた。お芋の開墾からできたら…とか思う部分もあるが、来年度は最終年ということで、もう少し晴れやかに健やかに色々な体験を出来る機会が出来ればと思う。

〇年小組

・コロナ禍で、不透明のなか、運動会を開催してくれたことで、いつも園で楽しく過ごしているんだなと安堵とともに運動会を思いっきり楽しむ姿を見ることができ、うれしく思った。子どもの発言・意見に対し、周りの反応が笑われたりすると恥ずかしい気持ちが映え、泣きそうになったりするときもみずほ先生は、「大丈夫。それでいいよ。間違っていないよ。」と自信を持たせる言葉をかけてくれたそうです。一人一人の子どもの様子をしっかり見てくださっているんだなと感謝の気持ちでいっぱい。今では「将来はみずほ先生になりたい！」と言っている。

・コロナ対策で園の様子を見られる機会がなく残念だったが、先生がいつも報告してくれていたので安心した。子どもも先生が大好きで毎日先生の話をしている。保育時間もコロナがあって短くなってしまったので成長を心配していたが、虫や花を見つけて「いのちだよ」と教えてくれる姿を見て、幼稚園で大事なことを教えてもらっているとわかった。大変な一年だったが、運動会や遠足をやってくれて嬉しかった。

・コロナ禍のなか、先生も不安な職務のなかで保育をして頂き、感謝する。成長がゆっくりな息子だが、幼稚園に通い、お友達とふれあうなかで、とても成長した姿を見ることができた。来年も、子どもの成長を楽しみに自分自身も親として一緒に成長して歩んでいきたい。

・入園当初、朝はすんなり手を離して教室へ向かってくれたが迎えに行くと顔をこわばらせていることが多く楽しめていないのかと心配だった。それでも運動会や劇遊び発表会などの行事を経験していくうちに自信がついて園生活を楽しむ余裕が出てきたように思う。最近では歯を見せて大きく口を開けて笑っていると先生から聞き、とても嬉しかった。集団のなかでたくましく成長していく姿をこれからも楽しみにしている。

・娘については、夏に救急車で運ばれる大事態に園が適切に対処してもらいとても感謝している。始めの頃は「保育園に行きたくなっちゃった」と泣くこともあったが、子どもへの愛情あふれる先生の愛情深い保育のお陰で今ではすっかりアソカっ子へと変わった。毎日先生やお友達の出来事を話してくれるので、その時間が楽しみだ。

・毎朝私と離れがたい娘だが、お迎えの時には「楽しかった」と言って抱きついてくれ、ほっとしている。遅生まれ+末っ子ということで、まだまだ甘えんぼだ

が、よろしくお願ひしたい。

・年少組 コロナ禍で運動会と秋の遠足・劇遊び発表会だけでも実施されて良かった。思っていた以上に歌や劇が好きなようでしっかりやれていたことに驚きと成長を感じた。年中に向けて少しずつでもうえの学年になったことを胸に成長してほしいと思う。

・どんぐり組に通っていたのでスムーズに登園できるだろうと思っていたが、泣きながらのスタートだった。でも、夏休み明けには、「幼稚園早く行きたい」に変わった。お弁当が始まり家でも、大きな声で「いただきます」「ごちそうさま」を自然に言えるようになった。運動会・遠足・劇遊び発表会と行事に参加するたび、子どもの成長を感じることができた。毎週の先生からのお便りが楽しみで息子の様子が書いてあると嬉しくなった。ほんの些細なことも息子の様子を教えてもらって、安心して預けられている。

・息子は初めての幼稚園であり、コロナの影響でだいぶイレギュラーの始まりとなってしまったものの、お弁当も一人で残さず食べてくるようになったり、自宅で歌やダンスを披露してくれたりと日ごとに成長を感じさせてくれている。今しばらくは大変な日々が続くと思われるが、トンネル先の光明を信じ、ともに頑張っていきたい。

・コロナ禍のなか、色々と対策を考えつつイベントを行ってもらったお陰で娘の劇や踊り等沢山見ることができた。幼稚園が大好きでいくのを楽しみにしている娘の様子を見て、とても嬉しく感じると共に、一生懸命園児と向き合い、楽しい環境作りに努めてくれている先生方のお陰だなと感じる。楽しくたんぼぼ組・くじら組で生活できたことを心から嬉しく思う。

・沢山友達ができたこと、色々な歌を歌えるようになったこと、お弁当を残さず食べられるようになってきたこと、幼稚園に行くことを楽しみにしていること。遠足、運動会、劇遊び発表会、シンボルタワーをうれしがっていたこと。登降園時の園長先生とのあいさつ、タッチを楽しみにしている。みずほ先生娘のことを気にかけてくれてありがとう、これからもよろしく。

・印象に残っているのは、運動会。家でも歌を歌ったり、ダンスをしたりしていた。本番では友達みんなと踊ったりする姿に集団で色々できるようになったんだなど、成長を感じた。劇遊び発表会でも同じような成長を感じた。トイレがなかなか行けるようにならず心配していたが、先生方が常に気をかけてくださり、有り難かった。できるようになり安心した。幼稚園での出来事をだんだんと家でも話してくれるようになってきた。毎週のクラス通信は、様子がわかって良かった。

・運動会では、本調子が出ず、ぐずってしまい「サモア島の歌」をうまく踊れなかった。本人もそれが悔しかったのか、その後の遠足では上手にできて大変喜ん

でいた。冬になってもまだ家で歌っていて、一度できなかったことがちゃんとできるようになって成長したことを本人も親も嬉しく思っている。入園前はどんぐりクラスでもそこまでお友達を認識していない様子だったが、今では〇〇ちゃんと遊びたい。と仲良しのお友達ができて良かった。

・毎日一日も嫌がることなく通園でき、感謝している。子どもから教室での出来事を報告してくれ、先生からのクラス通信と照らし合わせている。子ども一人一人をきちんと見てくれているなという安心感があり、今後行事などを通して成長していく姿を見るのが楽しみだ。

・今までも保育園に通っていたこともあり、集団生活にそれ程不安は感じていなかったが、お兄さん、お姉さんのなかで過ごすことで今までにない経験をしており、彼女自身楽しい面もあれば嫌だなと思う面、あこがれのような気持ちを感じているようで日々沢山のことを吸収しているなど感じる。遊び方や口真似など見ていてとても面白い。先生方もいつも細かいところを見て下さり、先生たちが大好きなようだ。このコロナのなかで多くの行事が中止となるなか、運動会や劇遊び発表会を開いてもらったことに感謝している。子どもたち全員が笑顔で歌ったり踊ったりしているのがとても印象的だった。

・コロナ禍での先生方の協力の下、開催された運動会や劇遊び発表会を通じて、子どもの成長を実感できた。今後もイベントを開催して頂けたらと思う。また、くじら組では他学年との交流により、お兄さんやお姉さんがやっていることに興味を持ったり一緒に遊んでもらったり、色々なことを教えてもらい知識が増えており、成長を感じている。

・昨年四月に引っ越し保育園から転園した。環境が大きく変わり、また、緊急事態宣言のため休園の期間もあり、すんなり幼稚園に行けるのだろうか心配だったが、入園後すぐに「幼稚園行きたい」「今日は〇〇くんと遊んだ」と幼稚園を大好きになってくれた。とにかく甘えんぼでまだまだ泣き虫だが、少しずつ泣くの我慢したり、ごめんが言えるようになってきた。

・どんぐり組から幼稚園に通うのが楽しく、早く入園したいと言っていた。コロナで入園式が延期になり、やっとたんぽぽ組さんになれて、お友達も沢山出来て、毎日がとても楽しい。土日のお休みも終われと言うぐらい、幼稚園が大好き、家では甘えん坊だけど、幼稚園ではお友達のお手伝いまで出来るように成長したことに感動だ。残り数ヶ月年少組を楽しんでもらいたい。

・最初はママと離れたくないと大泣きし、先生に抱えてもらい教室に行く毎日。慣れるまでに時間がかかるな…と覚悟していた。けれど、先生は優しく安心、お友達と遊ぶことは楽しいと気づいて、予想より早くなれることが出来た。自分で支度がちゃんと出来る。牛乳が飲めるようになった。泣いているお友達に変顔をして笑わせていたと色々なお話を先生から聞くたびに、すごく成長をしている

と嬉しく思った。

・毎朝、行きたくないと号泣で。家に帰ってきてからも「もう行きたくない」とぐずってばかりだったが、だんだんと朝に泣くことも減り、一人で教室に行ける日があったり、家でも歌や踊りだけでなく、ママがやってばかりだった着替えなど、その日に園で教わったことを自分で出来るようになった。今でも気分次第で朝にぐずる日もあるが、あんなに嫌がっていた園が冬休み中には、「なんで幼稚園行かないの、行きたかったのに」と言い出すほど楽しい場所になったようだ。コロナ対策などで手を取られ多忙ななかでも先生方がクラス関係なく、しっかりと一人一人を見て、その子の個性を大事にした対応して下さっていると感ずることが多々有り、感謝の気持ちでいっぱいだ。

・コロナの影響で入園式が遅れ園生活もなかなか出来ずなじめるのか不安だったが、初日も泣くことなく幼稚園に行くのが、楽しみで仕方がない様子だった。運動会や発表会も練習が楽しいらしく、家に帰ってからも起きている間はずっと練習を見せてくれた。幼稚園で教えてもらった歌や先生、お友達と話した内容を毎日聞かせてくれるぐらい、毎日が楽しく充実しているようだ。

○どんぐり組

・先生方がその子その子の好きな遊びや得意なことを大切にしてくれているところが良いなと思った。息子は凧揚げ作りなど工作が楽しかったようで、粘土の日は、迎えに行った時も、まだやっていて、おっと…。と色々な重いが込み上げてきた。先生は息子の集中して取り組む姿勢を褒めて下さり、嬉しさとほっとした気持ちだった。先生が明るく優しいのが息子も私も嬉しい。

・成長がゆっくりな娘に同年代の子たちとのふれあいの場を増やしたいと思い、どんぐりクラスに入会した。娘の成長の不安と、コロナの不安を抱えながら通わせてもらったが、本当に良い経験をさせて頂いたと思っている。親としては自分で行動し、興味を持ってほしいと思っても、家ではママを頼ってばかりで、まだまだ赤ちゃんのようだったが、幼稚園に通うようになってからは、言葉が増えたり歌に合わせて踊ったり、お姉ちゃんのままねをしてごっこ遊びをするなど赤ちゃんから子どもへの成長が見られた。帰宅してから、単語ではあるが「せんせい、でんしゃ、おどった」と幼稚園での出来事を伝えてきた時には驚いた。合同発表会では、舞台上で発表できるのか、そもそも舞台上に上られるのか、親の元に来てしまうのではないかと思っていたが、泣くこともなくお友達と一緒に踊ったり、マイペースにボーっと周囲を観察したり、娘なりに楽しんでいる姿を見て、親から離れても友達の輪の中で楽しむことが出来ているんだなと思わずに安心した。

・上の子のプレの時から付き添いで参加しており、ついに自分がメインで参加出

来るので、毎回張り切って登園していた。また、家では凄く甘えん坊なのだが、プレではなんでも自分でやろうとしているお姉さんになった姿を見ることができたのが良かった。

・親や子も初めてのことだらけの一年だったが、同級生のお友達と過ごす環境にすんなりとなじめていたように思う。初めて聞いた歌もダンスも一生懸命真似をしたり、自分のお気に入りのおもちゃを見つけたり、七月の終わり頃から、幼稚園はいつ？と楽しみにしていた。家では遊びにくい絵の具やお水遊び、制作などさせて頂いたなかで、元気っ子な割に控えめな色づけだな。とか、親に見立てて作ってくれたり、見えない部分の娘をしれた良い気付きになった。また、アソカ幼稚園はプレでも行事が豊富で、子どものやる気・できる力を引き出してくれるので、親も楽しんでいる。どんぐり運動会での先生を追いかけて入れるVerの玉入れ、親子でフラフープを使ったかけっこ、おやつの買い物ごっこなど趣向を凝らしたアイデア満載のかわいい運動会だった。どんぐり発表会で、名前を呼ばれて返事をしていた姿を見ただけで成長を感じウルツとした。案外恥ずかしがり屋さんのようで、家で練習していたほど、大きな動きはなかったが、笑顔で踊っていた様子がかっこよかった。九月の母子分離時、親の不安をよそにあっさりおもちゃに飛びついてしまったが、子どもにも輪が出来てきていることを実感した。幼稚園でトイレが出来るようになったり、できることが増えるのは、先生たちがよく手や目をかけてくれるからだと思う。

パパより

最初の方は親から離れる時、少しさみしそうな顔はしていたけど、相当楽しいのか成長したのか、大丈夫になり安心してお任せしている。

・担任の先生方がとても優しく本人も楽しく通っている。少人数なところも本人の性格に合っており、アソカ幼稚園に通うことが出来て良かったなと感じている。